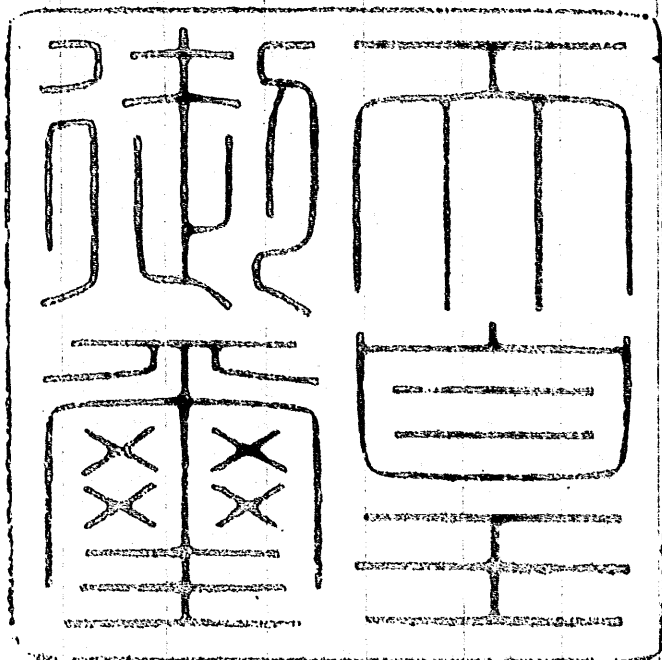


勅令第五十七號

朕樞密顧問ノ詔詢ヲ經テ明治三十三年
勅令第三百八十號中改正ノ件ヲ裁可シ
茲ニ之ヲ公布セシム

吉野加仁



大正元年十二月二十六日

内閣總理大臣公爵桂 太郎

司法大臣 松室致

農商務大臣 伊藤 廉

勅令第五十七號

明治三十三年勅令第三百八十號中左ノ
通改正ス

第一條 外國人又ハ外國會社ハ日本ニ
支店事務所又ハ代理店ヲ設ケ主務官
廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ保險事
業ヲ營ムコトヲ得ス

第一條ヲ第一條ノ二トス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第一項ノ代表者ニ付キ前項ノ届

出アリタルトキハ主務官廳ハ其氏名
住所ヲ公告スルコトヲ要ス

第二條ノニ 外國會社ノ代表者ハ退任

ノ後ト雖之ニ代ハルヘキ代表者ノ氏

名住所ニ付キ商法第二百五十五條ノ

登記及ヒ公告又ハ前條第二項ノ公告

アル迄仍代表者ノ權利義務ヲ有ス

第三條第一項第六號ヲ左ノ如ク改ム

六 財産ノ利用方法ヲ記載シタル

書類

第三條ノニ 外國會社カ解散シ又ハ日

本ニ於ケル事業ヲ廢止シタルトキハ

遲滞ナク之ヲ主務官廳ニ届出ツルコ

トヲ要ス

第五條 外國會社ハ生命保險ヲ目的ト

スルモノニ在リテハ十五萬圓損害保

險ヲ目的トスルモノニ在リテハ十萬

圓ノ金額ヲ供託スルニ非サレハ其事

業ヲ開始スルコトヲ得ス

外國會社ハ生命保險ヲ目的トスルモ

ノニ在リテハ各事業年度ノ終ニ於テ
 計算シタル責任準備金額ノ十分ノ六
 ニ相當スル金額損害保険ヲ目的トス
 ルモノニ在リテハ各事業年度ニ於テ
 収入シタル保険料ヨリ日本ニ於テ支
 拂ヒタル再保険料ヲ控除シタル殘額
 ノ十分ノ五ニ相當スル金額カ會社ノ
 既ニ供託シタル金額ヲ超ユルトキハ
 差額ヲ次ノ事業年度開始後六箇月内
 ニ供託スルコトヲ要ス其金額カ既ニ

供託シタル金額ニ達セサルトキハ供
 託金カ第一項ノ金額ヲ下ラサル限度
 ニ於テ差額ノ還付ヲ請求スルコトヲ
 得
 外國會社ハ主務官廳ノ認許シタル有
 價證券ヲ以テ前二項ノ供託金ニ代フ
 ルコトヲ得
 第六條ニ左ノ一項ヲ加フ
 日本ニ於ケル一般ノ債權者ハ外國ニ
 於ケル保險契約者被保險者保險金額

ヲ受取ルハキ者外國相互會社ノ社員
及ヒ一般ノ債權者ニ對シ供託物ノ上
ニ優先權ヲ有ス

第七條

外國相互會社、日本ニ於ケル

一般ノ債權者ハ日本ニ於ケル社員並
ニ其爲シタル契約ニ因ル被保險者及
ヒ保險金額ヲ受取ルハキ者ニ對シ供
託物ノ上ニ優先權ヲ有ス

第七條ノ二

外國會社ハ契約ヲ以テ責

任準備金算出ノ基礎ヲ同クスル日本

ニ於ケル保險契約ノ全部ヲ包括シテ
日本ニ於テ事業ヲ營ム他ノ保險會社
ニ移轉スルコトヲ得

保險業法第二十條ノ二第二項第三項

第二十條ノ三乃至第二十條ノ五第二

十條ノ八及ヒ第二十條ノ九ノ規定ハ

前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但第二十條

ノ五中株主總會ノ決議アリタル時ト

アルハ移轉契約書作成ノ時第二十條

ノ九第二項中第二十條ノ二第三項ノ

決議ノ後トアルハ移轉契約書作成ノ後トス

前項ニ掲ケタル規定中總會ノ決議及
ニ其決議録ニ關スル規定ハ外國會社
ニ付テハ之ヲ準用セス

第七條ノ三 外國會社カ日本ニ於ケル
保險契約全部ノ移轉ヲ為シタルトキ
ハ其事業ヲ廢止シタルモノト看做ス
第八條中報告書ヲ作リノ下ニ「遲滞ナク」
ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

外國會社ハ前項ノ時期ニ於テ日本ニ
於ケル保險契約ニ付キ其種類ニ從ヒ
責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケ
タル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第十條中又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者
ヲ「保險金額ヲ受取ルヘキ者又ハ一般ノ
債權者ニ改メ同條第一項中書類」下ニ
帳簿ヲ加フ

第十條ノ二 外國會社ノ交付スル保險
證券ニハ保險約款ヲ記載シ又ハ之ヲ

記載シタル書面ヲ添附スルコトヲ要ス
前項ノ保險證券及ヒ保險約款ハ別段
ノ請求ヲキトキハ日本語ヲ以テ之ヲ
記載スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ運送保險海上保險又ハ
再保險ノ契約ニハ之ヲ適用セス

第十條ノ三 外國會社カ其事業ヲ廢止
シ又ハ免許ヲ取消サレタル場合ニ於
テ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ殘
務ノ取扱ニ付キ代表者ヲ選任又ハ改

任スルコトヲ得

第一條ノ二第二項及ヒ保險業法第十
三條ノ三ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之
ヲ準用ス

第十條ノ四 外國會社カ其事業ヲ廢止
シ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ日
本ニ於ケル保險契約者又ハ社員ハ契
約ノ解除ヲ為スコトヲ得

前項ノ解除アリタルトキハ損害保險
ヲ目的トスル會社ニ在リテハ未タ經

過セサル期間ニ對スル保險料生命保
險ヲ目的トスル會社ニ在リテハ被保
險者ノ為メニ積立テタル金額ヲ拂戻
スコトヲ要ス

第十條ノ五 外國會社カ其事業ヲ廢止
シ又ハ免許ヲ取消サレタルトキハ遲
滯ナク其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第十三條 主務官廳ノ免許ヲ受ケスニ
テ保險事業ヲ營ムモノハ十圓以上十
圓以下ノ過料ニ處ス但其行為ニ付キ

刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス

第十三條ノ二 主務官廳ノ免許ヲ受ケ
サル外國人又ハ外國會社ノ爲ニ保險
契約者若クハ社員ヲ募集シ又ハ募集
セシメタル者ハ十圓以上十圓以下ノ
過料ニ處ス但其行為ニ付キ刑ヲ科ス
ヘキトキハ此限ニ在ラス

第十四條中「外國會社」代表者「外國人
又ハ外國人若クハ外國會社」代表者ニ
過料ニ處セラレテ「過料ニ處ス但其行為

ニ付キ刑ヲ科スハキトキハ此限ニ在ラ
ズニ改メ左ノ四號ヲ加フ

七 第五條第一項ノ供託ヲ為サハ

シテ事業ヲ開始シタルトキ又

ハ同條第二項ノ規定ニ依ル供

託ヲ為ササリシトキ

八 第七條ノ二ノ規定ニ違反シテ

保險契約ノ移轉ヲ為シ又ハ保

險契約ヲ為シタルトキ

九 第八條第二項ノ規定ニ違反シ

タルトキ

十 第十條ノ二ノ規定ニ違反シタ

ルトキ

第十四條ノ二 外國人又ハ外國人若ク

ハ外國會社ノ代表者ハ左ノ場合ニ於

テハ五圓以上五百圓以下ノ過料ニ處

ス但其行為ニ付キ刑ヲ科スハキトキ

ハ此限ニ在ラス

一 本令ニ定メタル登記ヲ為スコ

トヲ怠リタルトキ

- 二 本令ニ定メタル公告ヲ為スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ為シタルトキ
- 三 第二條第一項ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ其届出ヲ為スコトヲ怠リタルトキ
- 四 第三條ノ二又ハ第八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 五 第八條第一項又ハ第九條ニ掲

ケタル書類ヲ備へ置カス之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ為シタルトキ

第十五條中前二條ヲ前四條ニ改ム
 第十六條 保險業法第三條第四條第七條及ヒ第九條乃至第十一條ノ規定ハ外國會社ニ之ヲ準用ス
 保險業法第十三條ノ規定ハ事業ヲ廢止シ又ハ免許ヲ取消サレタル外國會

社カ殘務ノ取扱ヲ為ス場合ニ之ヲ準
用ス

第十六條ノ二 高法第二百六十條ノ規
定ハ外國會社カ日本ニ事務所又ハ代
理店ヲ設ケタル場合ニ之ヲ準用ス
外國會社カ高法第二百六十條ノ規定
ニ依リ支店、事務所又ハ代理店ノ閉鎖
ヲ命セラレタルトキハ免許ヲ取消サ
レタルモノト看做ス
非訟事件手續法第二百二十六條第二項

及ヒ第百三十四條乃至第百三十五條
ノ二ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準
用ス

第十七條中「第四十一條」下ニ「第四十八
條」ニ「ヲ加フ
第二十條中「支配人」ノ選任ヲ證スル書面
ヲ「支配人」ノ選任及ヒ教人ノ支配人カ共
同シテ代理權ヲ行フ一キコトヲ定メタ
ルトキハ其代表ニ關スル規定ヲ證スル
書面ニ改ム

第二十一條中「第百四十九條」ノ下ニ「第百五十條ノ二」ヲ加ヘ「第百五十一條」ヲ「第百五十一條」乃至「第百五十一條」ノ四ニ「第百六十五條」ヲ「第百六十四條」ニ改ム

第二十二條 第一條ノ二乃至第六條第七條ノ二乃至第十一條第十六條及ヒ第十六條ノ二ノ規定ハ外國人ニ之ヲ準用ス

第二十五條中「第四條乃至」ヲ「第二條乃至」改メ「第十五條」ノ下ニ「第十六條第二項」

第十六條ノ二ヲ加ヘ「第九十七條」ヲ削ル

附則

第一條 本令ハ明治四十五年法律第十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外従前ノ規定ヲ適用ス

第三條 本令施行前ニ免許ヲ受ケタル外國會社ニシテ命令ヲ以テ第三條第一項第二號ニ掲ケタル書類ニ定ムハ

キコトヲ規定スル事項及ニ同條第一
項第六號ニ掲ケタル書類ニ定ムハキ
事項ニ付キ認可ヲ受ケサルモノハ本
令施行後一年内ニ其認可ヲ申請スル
コトヲ要ス

第四條 本令施行前ニ免許ノ申請ヲ為
シタル外國人又ハ外國會社ハ命令ヲ
以テ第三條第一項第二號ニ掲ケタル
書類ニ定ムハキコトヲ規定スル事項
及ニ第三條第一項第六號ニ掲ケタル

書類ヲ補充スルニ非サレハ免許ヲ受
クルコトヲ得ス

第五條 外國會社カ従前ノ規定ニ依リ
供託シタル金額ハ本令ニ依リ供託シ
タルモノト看做ス
主務官廳ハ外國會社カ本令ノ施行ニ
依リ最初ニ供託スハキ金額ニ付キ供
託ノ期限方法其他必要ナル事項ヲ指
定スルコトヲ得
前項ノ指定ニ依リ未タ供託スルコト

ヲ要セサル金額ハ第五條第二項ノ差額ノ算出ニ付テハ之ヲ供託シタルモノト看做ス

第六條 本令施行前ニ免許ヲ受ケタル外國會社ハ日本ニ於テ用ウル保險證券ノ様式及ヒ普通保險約款ニシテ未タ認可ヲ受ケサルモノニ付キ本令施行後一年内ニ其認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條ノ二ノ規定ハ前項ノ規定ニ依

リ認可ヲ受クル迄其會社ニ付キ之ヲ通用セス